

## 「国際交流推進委員会」

### 1. 構成員

#### 1) 委員

委員長：福井小紀子（東京医科歯科大学大学院）

委員：池田真理（東京大学大学院）、上杉裕子（金城学院大学）、  
菅野雄介（東京医科歯科大学大学院）、グレッグ美鈴（名桜大学大学院）、  
志田京子（大阪公立大学）、寺本千恵（広島大学大学院）、西村直子（大手前大学）

#### 2) 協力者

なし

### 2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流を積極的に推進する。
- 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) の Executive Committee (EC) に参加し、連携を促進する。現在、EAFONS の代表が池田委員であるため、EAFONS の事務局機能も委員が担っている。
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動を推進・支援する。

### 3. 活動経過

- 1) 今年度の委員会は、計 6 回開催され、委員会主旨に沿った活動が実施された。

#### 【第 1 回委員会】

日時：2023 年 4 月 3 日 16 時 30 分～17 時 20 分（Zoom 開催）

内容：EAFONS2023（東京大会）の開催結果の報告、EAFONS EC 会議（9 月予定）の報告、  
2022 年度事業活動報告書の確認、2023 年度事業活動計画・予算案の確認と検討などを行った。

#### 【第 2 回委員会】

日時：2023 年 5 月 31 日 14 時 00 分～15 時 00 分（Zoom 開催）

内容：国際交流推進委員会主催 研修会プログラム（案）の確認と検討、研修会プログラムでの発表  
内容の検討、研修会までの準備とスケジュール（案）の確認、EAFONS7 か国 Survey の日本の  
回答の検討などを行った。

#### 【第 3 回委員会】

日時：2023 年 7 月 12 日 18 時 00 分～19 時 05 分（Zoom 開催）

内容：研修会プログラムのタイトル、時間配分、当日の役割、発表内容、研修会までの準備など  
確認及び検討した。

#### 【第 4 回委員会】

日時：2023 年 9 月 20 日 18 時 00 分～19 時 10 分（Zoom 開催）

内容：研修会の運営の確認、ポスター案の確認及び検討をした。

#### 【第5回委員会】

日時：2024年1月31日18時00分～19時10分（Zoom開催）

内容：研修会の講演資料の共有、研修会の進捗と当日のスケジュールの確認、研修会後のアンケート内容の確認、EAFONS2024の博士課程のシンポジウムの内容の検討などを行った。

#### 【第6回委員会】

日時：2024年3月11日18時00分～19時00分（Zoom開催）

内容：研修会の実施報告書を基に振り返りと次年度の検討、2023年度事業活動報告書と2024年度の事業活動計画書の確認及び検討をした。

### 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) の Executive Committee (EC) への参加と連携促進

#### 【Executive Committee Meeting への参加】

2024年3月6-7日のEAFONS2024（香港大会）の会期中に開催され、Chairの池田委員と福井委員長、事務局としてグレッグ委員と寺本委員が参加した。東アジア地域の看護系大学間協働のための活動方法や新たな国々の受け入れ等、運営課題の検討が行われた。また、博士課程の教育に関する実態調査を国際共同研究として今後進めていくことについて協議した。

#### 【第27回東アジア看護学研究者フォーラム EAFONS2024（香港大会）】

福井委員長がシンポジストとして登壇し、日本における博士課程の教育の現状について発表した。次回のEAFONS学術集会は、ソウル大学が主催で2025年2月13-14日に韓国で開催される予定である。

### 3) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進

本委員会主催セミナー「国際交流の再開と更なる発展：コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から」を2024年3月2日（土）にZoomウェビナーにて開催した。詳細は、実施報告書に記載した。

## 4. 今後の課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、初のセミナー開催となった。講演は、特色のある4大学の取り組みについて、過去の研修事例や運用方法など具体的に説明された。アンケートの結果から、講演やパネルディスカッションで参加者の大半が役に立ったと回答されていたが、国際交流を推進していくための障壁として、担当する人材（教員や学生）、交流大学も含む複数大学の組織体制やカリキュラム内容・研修時期、資金などが挙げられた。会員校のニーズも鑑みて、様々な状況を想定しながらセミナーの企画・運営を行っていく必要がある。

## 5. 資料

### 1) 2023年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー実施報告書

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/03/houkoku20240302kokusai-seminar.pdf>

## 2023年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー

### 「国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から」

#### 実施報告書

##### ■開催概要

名称:国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から

日時:2024年3月2日(土)13:00~15:10

形式:Zoom ウェビナーを用いた WEB 会議

参加者:JANPU 会員校に所属する教職員・学生 76 名

開催目的:対面での国際交流を阻んできた新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、国際交流を再開した大学も多いことから、大学教職員である参加者が、国際交流を活性化するために、明日から始められる国際交流活動の受け入れ・訪問を含めて具体的な内容を共有し、国際交流の再開と更なる発展を目指したセミナーを企画した。

実施内容:以下の通り、2部構成で実施した。

第1部 講演(13:05-14:15)

講演1 学生交換国際交流プログラム~学生、教職員のチームづくり~:大手前大学の取り組み

講演2 大学統合を機に国際交流活動のシナジーを目指す:大阪公立大学の取り組み

講演3 オンライン国際協働演習(e-START)とその後の発展:広島大学の取り組み

講演4 オール看護学専攻で取り組む国際交流プログラム:神戸大学の取り組み

第2部 パネルディスカッション(14:25-15:10)

##### ■開催総括

今回、新型コロナウイルス感染症5類移行後の初のセミナー開催であり、本講演は、特色のある4大学の取り組みについて、過去の研修事例や運用方法など具体的に発表した。アンケートの結果、講演やパネルディスカッションで参加者の大半が役に立ったと回答しており、特に講演者が実践された内容や工夫されている点などは、参加者の大学でも参考になったと自由回答から読み取れた。また、国際交流を進めていく上での障壁として、教員の語学力、担当者以外の教員に関心を向かせる・巻き込み方などの参加者の悩みも、今回共有及び共感できる機会となった。語学力に対しては、講演者から教員も共に学んでいく姿勢についてメッセージが送られ、参加者の励みになったと推察する。

昨今の社会情勢を鑑み、多くの会員校で国際交流が更に推進されると考えられるが、国際交流の経験が蓄積し国際共同研究も視野に入れ活動されている大学がある一方、資金面や人材の確保など国際交流が上手く軌道に乗れない大学も存在する。今後、会員校のニーズも鑑みて、様々な状況を想定しながらセミナーの企画・運営を行っていく必要がある。

## ■アンケート結果(57名回答、有効回答率75%)

### 1. 属性

	2023年度(N=57)		2021年度*(N=82)		2020年度**(N=124)	
	n	%	n	%	n	%
<b>性別</b>						
女性	53	93%	78	95%	109	88%
男性	1	2%	3	4%	7	6%
未回答	3	5%	1	1%	8	6%
<b>年齢</b>						
20歳代以下	2	4%	2	2%	2	2%
30歳代	6	11%	7	9%	10	8%
40歳代	11	19%	20	24%	41	33%
50歳代	26	46%	35	43%	47	38%
60歳代以上	8	14%	16	20%	16	13%
未回答	4	7%	2	2%	8	6%
<b>勤務先</b>						
国立大学・省庁大学校	11	19%	11	13%	28	23%
公立大学	15	26%	26	32%	35	28%
私立大学	31	54%	45	55%	61	49%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
<b>職位・身分</b>						
学長・学部長・学科長・専攻長	8	14%	2	2%	9	7%
上記以外の教授	15	26%	31	38%	26	21%
准教授・講師	20	35%	31	38%	60	48%
助教・助手	10	18%	13	16%	20	16%
大学院生	2	4%	0	0%	5	4%
学部生	1	2%	2	2%	2	2%
学務部職員	1	2%	2	2%	2	2%
未回答	0	0%	1	1%	0	0%
<b>勤務・在学している地域</b>						
北海道・東北	3	5%	7	8%	5	4%
関東	20	35%	27	33%	40	32%
中部	12	21%	18	22%	20	16%
関西・近畿	13	23%	17	21%	18	15%
中国・四国	3	5%	4	5%	15	12%
九州・沖縄	6	11%	9	11%	26	21%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

\* 2021年度のアンケート回答結果:2022年2月19日(土)13:00-15:30 Zoomウェビナーにて開催

「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」

\*\*2020年度のアンケート回答結果:2021年2月20日(土)13:00-15:30 Zoomミーティングにて開催

「with コロナ時代の看護学教育における国際交流・連携の実際と課題」

## ■アンケート結果(つづき)

### 2. セミナー開催時期

	2023年度(N=57)		2021年度*(N=82)		2020年度**(N=124)	
	n	%	n	%	n	%
<b>開催時期</b>	(3月開催について)		(2月開催について)		(2月開催について)	
とても良かった	34	60%	41	50%	61	49%
まあまあ良かった	21	37%	38	46%	60	48%
あまり良くなかった	2	4%	3	4%	2	2%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	1	1%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
<b>休日の開催</b>						
とても良かった	24	42%	31	38%	52	42%
まあまあ良かった	27	47%	36	44%	55	44%
あまり良くなかった	6	11%	11	14%	15	12%
まったく良くなかった	0	0%	4	4%	2	2%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
<b>午後の開催</b>						
とても良かった	32	56%	38	46%	67	54%
まあまあ良かった	23	40%	41	50%	52	42%
あまり良くなかった	2	4%	3	4%	4	3%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	1	1%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
<b>開催時間の長さ</b>	(2時間10分)		(2時間30分)		(2時間30分)	
とても良かった	24	42%	21	26%	36	29%
まあまあ良かった	28	49%	46	56%	63	51%
あまり良くなかった	5	9%	14	17%	24	19%
まったく良くなかった	0	0%	1	1%	1	1%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
<b>オンラインでの開催</b>						
とても良かった	52	91%	66	81%	107	86%
まあまあ良かった	5	9%	15	18%	17	14%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
まったく良くなかった	0	0%	1	1%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

\* 2021年度のアンケート回答結果:2022年2月19日(土)13:00-15:30 Zoomウェビナーにて開催

「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」

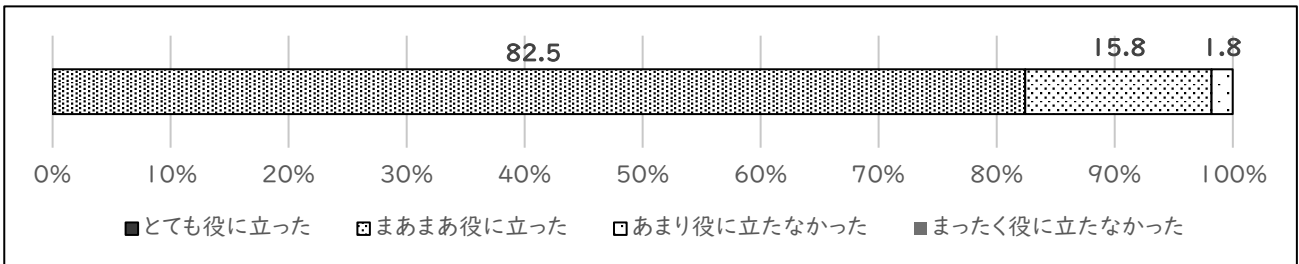
\*\*2020年度のアンケート回答結果:2021年2月20日(土)13:00-15:30 Zoomミーティングにて開催

「with コロナ時代の看護学教育における国際交流・連携の実際と課題」

## ■アンケート結果(つづき)

### 3. セミナーの内容に対する評価:講演について

Q3-1. 講演に対する評価をお尋ねします。それぞれについて当てはまる項目1つを選択してください。



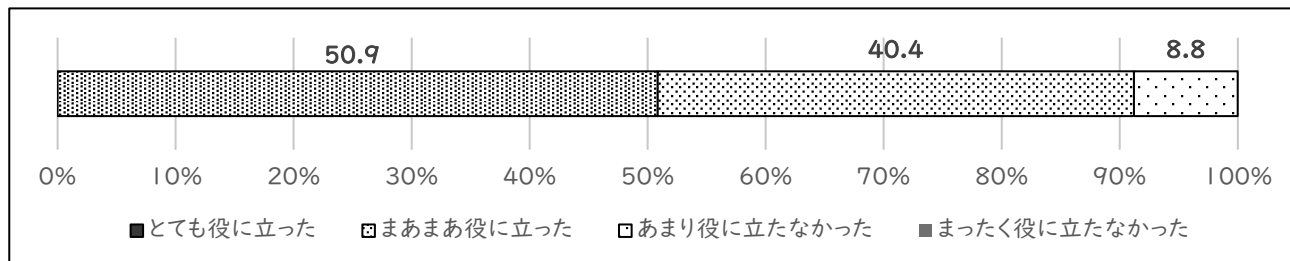
Q3-2. 「講演について」以下に、役に立ったと思った事柄を挙げてください。

カテゴリ	回答内容 (n=39)
MOU	・ MOUを活用した国際交流
国際交流の 実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ディプロマポリシーとの関連や、実際の取り組みを丁寧に教えていただいたこと (n=3)</li> <li>・ 他大学の国際交流の取り組みを把握することができたこと (n=14)</li> <li>・ 学年が上がるにつれての段階的な交流であったり、交換留学というような形での1か月の学びのプログラム、ウェブツールを使用しての相互交流など、さまざまあり、ぜひ今後の国際交流を考える上での参考にさせて頂きたいと感じた。</li> <li>・ 国際看護交流の状況および交流プログラム作りについて知ることができました。(n=3)</li> <li>・ 継続性が重要であることがよくわかりました</li> <li>・ 具体的なプログラムが紹介されたこと。また、資金の準備方法等もあったので参考になりました。</li> <li>・ オンラインでの交流の事例を聞いたこと</li> <li>・ 今まで、国際交流に関して学生としての立場で参加することが多かったが、看護系大学内で国際交流を推進されている教員の方が、様々な準備や工夫をされ、実現に至っているのだということがよくわかりました。これは教員としての取り組みだけでなく、今後、自分自身が国際経験を積むこと、交流をすること、取り組みを推進すること等を考える時に、具体的にイメージすることに役立つと思いました。</li> </ul>
国際交流の 運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの困難があると想像できる中で、勢力的に国際交流を進めており、注力できるエネルギーが必要だとわかりました。</li> <li>・ 各大学の国際交流プログラムが、1年次から4年次まで段階を追って系統的に展開されていることは取り入れたいと思いました。また教職員をいかに巻き込んでいくかという課題について共有できたこともよかったですと思います。(n=2)</li> <li>・ 各大学のプログラム内容、学生・他教員の巻き込み方、事務員の雇用など(n=4)</li> <li>・ 委員会や国際交流担当だけでなく、全領域で取り組みされるプログラムになっているところが参考になりました。(n=2)</li> <li>・ 学内で他の教員を巻き込む戦略、大学を挙げて国際化を推進するフレームワークの存在、学生交流のプログラム内容</li> </ul>
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各大学におけるプログラムの具体的な内容や、領域・教職員の体制などが分かって良かった</li> <li>・ 組織づくり、予算確保の方法、教員FDに役立つ。語学に堪能な教員でないと無理、からのパラダイム・シフトが印象に残っています。プライドも捨てなくては、と思います。むしろ、教員もペラペラじゃないよ、それでも大丈夫よ、大切なのは関心と熱意といったメッセージを学生に伝えられるように。</li> <li>・ 教員だけではなく、事務などにも国際に強い人材が必要であることがわかった。また、教員のマンパワーに頼るのではなく、組織づくりをすると、より発展することも学べた。(n=2)</li> <li>・ 国際看護学を積極的に進めている大学が、必ずしも国際看護学専門教員の配置をしているわけではなく、学科全員で試行錯誤をしながら運営していることがわかり、自学も頑張らなければと思いました。</li> </ul>

## ■アンケート結果(つづき)

### 4. セミナーの内容に対する評価: パネルディスカッションについて

Q4-1. パネルディスカッションに対する評価をお尋ねします。それぞれについて当てはまる項目1つを選択してください。



Q4-2. 「パネルディスカッションについて」以下に、役に立ったと思った事柄を挙げてください。

カテゴリ	回答内容 (n=29)
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流を進めていく上での課題 (n=6)</li> <li>・ 国際交流を実現させるための多大なエネルギーを確保するにはやはり大学全体の取り組みとして進めることが重要だと感じました。(n=3)</li> </ul>
予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他大学での取り組みや資金の調達など具体的な策が参考になりました。(n=3)</li> </ul>
感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際看護学推進校の思いを伺うことができよかったです。(n=8)</li> <li>・ 先進的な取り組みをされている先生方も、悩みながら進められているとわかった。(n=5)</li> <li>・ 対象者は多様な背景を持っており、ケアを提供する際にボーダーはない、という看護の本質に関わることを改めて感じられたこと。(n=2)</li> <li>・ パネラーの皆様のより本音が聞けたことで、元気が出ました。こういう機会が看護教育(教員)を豊かにするのだと感じます。</li> <li>・ 国際交流は語学力に自信がないので尻込みするところもあったが、そこは気にしすぎず、まずはやってみることが大切だと思える内容だった。(n=2)</li> <li>・ 「大きく目指して小さく始める」、はとても印象に残っています。</li> <li>・ 「国際交流」と共通するテーマではあっても、大学毎に取り組む内容(国や地域等も含む)や関係者等大きく異なってくるのが分かりました。イベントとして実施するのではなく、何を狙いとして展開していくのか、看護の中だけにとどまらず、幅広い視野でグローバルな課題解決につながる取り組みとして考えていく必要があることを学びました(行動レベルでは小さな目標を段階的に積み重ねていく形であったとしても)。</li> </ul>

## ■アンケート結果(つづき)

### 5. 看護学教育のグローバル化に向けて

Q5. 今回の研修会を通して、あなたやあなたの大学では看護学教育のグローバル化に向けて明日からどのようなことをできると思いますか？ 具体的な目標や方策を1つ以上、挙げてください。

カテゴリ	回答内容 (n=37)
MOU	・ 学術交流協定を結んでいても活かされていなかったため、今後交流を進めていけるとよいと思いました。(n=2)
FD	・ FDに国際交流を組み込み、各領域の教員が興味を持って参加できるようにしたい。(n=3)
語学力	・ 海外との交流の機会があった時に参加できるように英語力を上げる(n=3)
体制づくり	・ 人事交流 制度作り(n=2) ・ 領域を超えた協力体制の構築や、4年生から1年生への学びの共有など、実際に取り組めそうなヒントが得られたので、提案してみたい ・ 教員体制では「One Team」でのぞむことと、学生さんとともに学ぶ姿勢を忘れないことです。(n=2) ・ 学部単位や個人で取り組むのではなく、大学全体や他部署(国際交流センターなど)と協力する(n=2)
交流	・ 国際交流に興味がある教員を探し、見つけて何か行動すること。(n=5) ・ 国際交流や研修を通して、どんな学生を育成したいかということを考え、方向づけをしていきたい ・ 学生が参加できる国際交流のイベントを行うことです。(n=4) ・ EAFONSの参加により、東アジアの研究や人々に積極的に触れること
運用	・ 国際交流サークルの立ち上げ(n=2) ・ 現在ある国際交流プログラムの位置づけと4年間を通してどのような国際交流プログラムが可能かを考えてみようと思いました ・ 現在年1回国際交流セミナーを開催し、教員の国際学会発表体験等を紹介していますが、学部カリキュラムに単位化できるような可能性があればと思います。(n=3) ・ 現在実施している国際交流活動を目的別に整理すること、各分野や科目で国際交流として活用できる、実施できる内容、方法がないか調べること、など。
教育	・ グローバル化について教員の共通理解 ・ 異文化看護(国際看護ではなく)の視点を持った教員の育成が急務と考えます。 ・ 自身の科目でも「国際」ということを意識して取り組むこと。 ・ 看護学教育のグローバル化の重要性を発信していく。 ・ 日常生活、教育、研究の中で英語を活用する機会を増やす。英語でのやり取りやディスカッションに積極的に参加する。今後の研究や博士課程の論文を英語で投稿する。



## ■アンケート結果(つづき)

### 6. セミナーの感想と意見

Q6. 今回の研修会についてのご意見、ご感想などをご記入ください。

カテゴリ	回答内容 (n=24)
MOU	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MOUを活用するために、まず何をしたらよいかの手順や方法が聴きたかった。</li> </ul>
感想(全体的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまな大学の取り組みを聞くことは、大変学びになりました。(n=7)</li> <li>・ 他大学の先生方が工夫されて行っていることをよく理解できました。(n=2)</li> <li>・ コロナ、そして他の業務に忙殺されて、後回しになっていた国際交流に対するモチベーションが向上しました。貴重な機会をありがとうございました。(n=2)</li> <li>・ 様々な大学の実際例をお伺いでき、4大学のご報告はとても有意義に思いました。</li> <li>・ 私は国際看護学の担当者であります。海外との交流チャンスを作ることができるときがありますが、学生の参加や、教員の協力を得るのに大変であるため、今日の話聞いてとても勉強になりました。交換留学に参加する学生(双方)は、ほとんど自己負担で行ったり来られたりしますので、来れるところとなかなか来れないところがあります。これから、奨学金や援助金制度があればと思いました。</li> <li>・ 今年度から、国際に関する委員会に入ったため参加しました。私自身も英語へのハードルが高く、今現在もそこは払拭できていませんが、セミナーに参加したことでハードルが少し上がったように感じています。教員自身が楽しんで企画し取り組めることが、学生の参加を促す第一歩だと感じました。ありがとうございました。</li> <li>・ 国際活動を推進する担当者など一部の教員に活動が偏りがちなので、看護学科全体で国際活動を進めておられる様子から、大変刺激をいただきました。特に、全領域で授業に英語を使った事例演習を取り入れているというお話は素晴らしいと思いました。</li> </ul>
意見(改善点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合大学での取り組みをご紹介いただいたので、医療系大学の私の職場と比べると規模が大き過ぎて、実践に取り入れていくのは難しいと思いました。しかし、部分的にはとても参考になりました。(n=2)</li> <li>・ 今後も続けていただきたいのと、やはり高名な先生方が数多いらっしゃる中で、なかなか発言しにくい状況でした。もう少し、若輩者が関われる仕組みがあれば(チャットでの質問など)幸いです。(n=2)</li> <li>・ 参加者が見えない中で、質問で手を挙げることを遠慮される方もいらっしゃるのかもしれませんが。講演中からチャットで質問を受け付け、質問への回答は、2部になって主催者が質問を順に読みながら答える形だと活発になるかもしれません。</li> <li>・ 本研修会のテーマが「コロナ禍での継続」ということが含まれていました。国際交流推進のための取り組みについて、コロナ前と比べてこのプログラムはこういう方法が良いと感じた、等あればもっと聞いてみたかったです。例えば、インタビューをする時に、以前は現地に行くことしか選択肢がなかったが、オンラインの方法がよい場合もある等(言語的な課題がある時に、通訳者等支援者にアクセスしやすい…)。</li> <li>・ 実際に大学の中で国際交流推進されている先生方が、プログラムを展開していくにあたって、助成金の獲得を意識されていることを知ることができました。海外と入学や卒業、また学期の考え方が異なることによるタイミングを考慮しなければならないこと、期間の制約、助成金とするからにはある程度の英語力は求められる等、希望者に平等に機会が与えられればよいですが、実際に参加する者の覚悟?努力?も必要とされると思いました。</li> <li>・ 今回紹介された大学が西日本(特に関西圏)に偏っていたことが残念です。地域の資源によって取り組みも異なると思いますので、関東圏など様々なエリアの大学の取組が聞きたかったです。</li> <li>・ 今回の研修で新しく計画を立てるには予算化も終了して、シラバスや行事も確定している時期なので一年後に向けて動くしかない状況です。夏にこのような研修があれば、後期にできる活動を少しずつやっていくことができたと思います。また、予算化にも間に合ったと思うので、開催時期の検討をお願いしたい。開催時間に関しては、Q&amp;Aの時間を延ばして、予算等もう少し突っ込んだ情報を得られたらよかったですと思います。</li> </ul>

## ■アンケート結果(つづき)

### 7. 今後希望する企画

Q7. 大学のグローバル化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期についてご意見をご記入ください。

カテゴリ	回答内容 (n=15)
希望企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できたら今回の国際交流について、段階を追った企画をお願いしたい。</li> <li>・ 同様の研修をまた受けたいと思います。</li> <li>・ 学生の国際に対する興味の喚起をする企画</li> </ul>
企画時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月など、次年度への検討が間に合う時期の開催時期など</li> </ul>
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に国際交流に携わっている教員の方々と交流をしたいです。</li> <li>・ 海外の名の通った大学には、日本の大規模大学との交流がすでにあるので、交流機会を設けるのは難しそうに思いました。大きな大学で、他の大学の参加も可能、というようなチャンスを設けていただけると大変ありがたいと思いましたが(業者が実施するプログラムのようになるかもしれませんが…)。また、池田先生がおっしゃったようにオンライン交流の可能性を広げるような企画にも関心があります。</li> <li>・ 国際交流や学生交流の実際を知りたいと思います。今般の円高で教員も海外研修に行きづらいなか、学生交流をどうやって実施しているのでしょうか。また、提携校の探し方、特に欧米の提携校をどうやって探しているのか知りたいです。総合大学ならば既に提携校がたくさんあるので苦労は少ないと思いますが、単科大学は教員がつて探すしかなく大変で、断られたりもします。また、海外の大学とのアカデミックイヤーのずれをどう工夫しているのでしょうか。提携校から研修の誘いを受けても、こちらは演習まっさかりだったり試験期間だったりとなかなか学生派遣に結び付きません。日本の学生がいけるときはアメリカは長期休暇でキャンパスに学生がいらない、という現象が生じます。他にも相手校から最低2週間の研修設定を要求され、教員の付き添いが必要な研修内容の場合、2週間も海外に行ける人を探すのが困難であきらめたこともあります。他にもいろいろ実施上の困難はありますが、どのように工夫されているのかを知りたいです。</li> </ul>
予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算がどの位必要なのか、とか費用はどの位かけて行っているのかお聞きしたい。</li> <li>・ 大学のグローバル化を通した共同研究の進め方(予算獲得も含めて)</li> </ul>
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日のような各教育機関の取り組み(学内の調整の実際など)</li> <li>・ 地方の単科大学等がどのようにグローバル化を進めていっているのか。</li> <li>・ 研究活動をグローバルに展開している方の実践例が知りたいです。</li> <li>・ 今回は教育面が中心と拝見しましたが、次回は国際協働研究について複数の大学の取り組みを伺いたいです。</li> <li>・ 国際活動を進める上で、資金の獲得や専門の事務員の配置など、どのように体制を整えられたのか、具体的な方法を知りたいです。英語での事例演習をどのように行っているか、実際の様子を伺いたいです。</li> <li>・ 相手国の事務方とどのように継続的にかかわっているのか、大学の国際事務は人によって対応が結構異なる。</li> </ul>